

ジェネレーションシヨンプスの現状と今後

岡本社長に聞く

前号に引き続き、シ手掛ける青島新綻紡質エネレーションパス（東京都新宿区）の岡本洋明社長に、現状の取り組みや今後の展望などについて聞いた。（聞き手は本紙記者・山崎晋）

◇ 中国の子会社を

通じた事業展開は。現在、当社では中国の研究開発や商社を



業法人税率の軽減や、研究開発費用の加算控除の適用、中国市政府による助成金などの資金支援優遇、政府調達やプロジェクト入札の際の優先・特別待遇などを受けることができている。

2025年にはこの

使った『カポック繊維』について、羽毛をミックスした新素材として開発したもの。羽毛に匹敵する軽量性と保温性を備えつつ、羽毛と比較して非常に経済的な素材となっている。

羽毛の価格が上昇する中、羽毛のおよそ10分の1の価格で製造できるもので、冬物寝具などに活用できる。もう一つは今市場が

「カポック繊維」を使った「カポック繊維」について、羽毛をミックスした新素材として開発したもの。羽毛に匹敵する軽量性と保温性を備えつつ、羽毛と比較して非常に経済的な素材となっている。

価格が急激に上昇しているという課題があった。価格が上昇しているからとは言え、代替素材として化学繊維に依存することを敬遠する人もいるので、天然繊維とも組み合わせることで高い機能を引き出すことができないか

「どういった素材を組み合わせれば良いのか」ということについて、AIの力も借りて、最適な素材の組み合わせ方を見つけるには、当然、実証実験を行う必要がある。蓄積されたデータからAIを活用して、どのようなパターンで組み合わせさせていくのかを決めている。例えば消臭であればモズクやイグサなどを使ったり、また、別のシリーズをテスト

「まずはこれらの技術自体を活かして、当社ですでに展開しているD2Cブランドの『シンプラス』とは別のシリーズをテスト開発をして販売していく。寝具やその周辺用品の寝巻やリカバリーウェアなど、夏向けの清涼Tシャツなども検討している」

中国子会社が特許取得 高機能繊維素材が新たな商機に

高機能繊維素材が新たな商機に

④

手小売り事業者向けの供給が始まっており、製品化も進んでいる。そして最後が夏用に

に關わる案件以外は、こちらから口出しをせずに自由に行ってもらっている。非常に

体温調整ができる機能性繊維。『PCMリヨセル繊維』という名称で展開しており、ユーカリやブナなどの持続可能な木材資源を原料とし、環境負荷を抑え

も活用している。この3つの素材の基礎特許の部分について、取引先となるメーカーや小売企業など

「元々、繊維に關して、例えばコットンなど天然素材を使ったアパレル商品などは、原材料費高騰の問題から

は素材提供という形で行う必要がある。蓄積されたデータからAIを活用して、どのようなパターンで組み合わせさせていくのかを決めている。例えば消臭であればモズクやイグサなどを使ったり、また、別のシリーズをテスト

「この分野で開発が進んだ経緯は。セル繊維」という名称で展開しており、ユーカリやブナなどの持続可能な木材資源を原料とし、環境負荷を抑え

「この3つの素材の基礎特許の部分について、取引先となるメーカーや小売企業など